

日本剣道形 太刀の形解説 三本目

項目	三本目
動作の解説	<p>① 打太刀、仕太刀相下段で互いに右足から進み、間合に接したとき、互いに気争いで自然に相中段になる。そこで打太刀は機を見て、刃先を少し仕太刀の左に向け、右足から一步踏み込みながら、鎧ですり込み、諸手で仕太刀の(1)水月を突く。仕太刀は、左足から一步大きく(2)体をひきながら、打太刀の刀身を物打の鎧で軽く入れ突きに(3)萎やすと同時に打太刀の胸部へ突き返す。 注(1)みずおちである。 (2)体をひかないで、手だけひくときは、突き返すときの間合が正確でなくなるので、打太刀の進む程度に応じてひき方に十分注意すること。 (3)仕太刀が打太刀の剣先を萎やす程度は打太刀の剣先が体をはずれぬぐらいにする。なお、仕太刀が萎やすときは刃先は右下を向き、突くときは真下を向く。 打太刀の突きを萎やして仕太刀が入れ突きに突き返す場合は、打太刀の突く刀身と、仕太刀の萎やし入れ突きに返す刀身の縁が切れないように行うことがたいせつである。</p> <p>② 打太刀はこのとき(1)右足を後ろにひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の咽喉部につけて仕太刀の刀を物打の鎧で右に押さえる。 注(1)右足のひき方には注意して正確に行うことがたいせつである。</p> <p>③ 仕太刀は、さらに突きの氣勢で左足を踏み出し、位詰めに進むので、打太刀は左足をひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下からまわして返し右自然体の構えになり、物打の鎧で押さえるが仕太刀の気位に押されて剣先を下げながら左足から後ろにひく。 仕太刀は、すかさず右足から二、三步小足にやや早く位詰に進み、剣先は胸部から次第に上げて行って顔の中心につける。 その後、打太刀は右足から、仕太刀は左足から相中段になりながら刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。</p> <p>④</p>
指導上の留意点	<p>1 打太刀は的確に水月を突き、手もとが上がらぬように注意させる。</p> <p>2 仕太刀は突き返したら、更に突きの氣勢で位詰めに進むのであって、突くのではないから、この時剣先は突き出さぬようにさせる。</p> <p>3 仕太刀がやや早く位詰めに進み、剣先を顔の中心につけた後、元の位置にもどる時は、打太刀の始動と呼吸を合わせて引き始めさせる。</p>
審査上の着眼点	<p>打 下段の構えから気争いで中段の構えとなり、刃先を少し右に向け、鎧ですり込み仕太刀の水月を的確に突いているか。</p> <p>打 仕太刀の萎やし入れ突き、及び位詰めを左自然体、右自然体となって、物打の鎧で押さえ、剣先は咽喉部につけているか。</p> <p>仕 刃先を右下に向け、左足から一步大きく体をひきながら、打太刀の刀身を物打の鎧で入れ突きに萎やし、刃先の向きを真下にもどしつつ、正確に胸部を突き返しているか。</p> <p>仕 突き返した後、更に突きの氣勢で、剣先を突き出すことなく、位詰めに進んでいるか。</p>

出典:全日本剣道連盟「日本剣道形解説書」より